数字で見る令和7年度決算

市のお金はどう使われた？



「創る改革」で財源を確保し、未来の成長を見据えた「次世代投資」を進めた令和7年度。民間による投資の拡大や、人を引き寄せる流れが強くなるなど、「選ばれるまち」に向けた動きが広がっています。
ここからは令和7年度の市のお金の流れを紹介します。

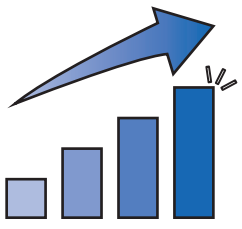
令和7年度決算　3つのポイント

❶ 市税収入が過去最高

1,911億円

前年度比 +109億円

賃上げによる所得の増加や企業の設備投資などで、市税収入は過去最高に。地域経済の好循環が、数字にも表れ始めています。



市税収入の特徴

企業による投資の状況が反映されやすい税目では、指定都市平均を上回る伸びが見られました。

税目別の税収伸び率

固定資産税（建物分）
+3.1%
指定都市平均 +2.9%
指定都市内の順位 17位 ➡ 6位
事業所やマンションなどの新築・増築

固定資産税（設備投資分）
+4.3%
指定都市平均 +3.3%
指定都市内の順位 16位 ➡ 5位
機械設備・機械装置などへの投資

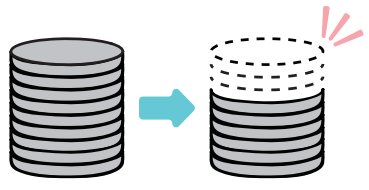
事業所税
+3.1%
指定都市平均 +1.9%
指定都市内の順位 16位 ➡ 3位
企業進出・事業拡大による事業所床面積の増加

※順位は税収伸び率の指定都市内順位（R5→R6 ➡ R6→R7）

❷ 市債残高は16年ぶりに減少

前年度比 ▲205億円

投資的経費の適正水準を設け、事業の必要性や将来負担を見極めて市債の発行を管理。計画的な返済も相まって、市債残高は1兆1,852億円となりました。健全な財政運営への大きな一歩です。



❸ 次世代投資を推進

令和6・7年度 238億円

「財政の模様替え（創る改革）」で生み出した財源を、若者・子ども、公共施設の老朽化対策、産業基盤の強化・創出など、未来の成長や暮らしにつながる分野へ重点的に配分しました。

未来のまちづくり投資基金を創設



公営競技事業の収益金を財源とした基金（200億円）を創設しました。市民のニーズが特に高い、子ども・若者が多く利用する施設の整備などに活用します。

例：学校トイレの洋式化、学校へのエアコン設置など

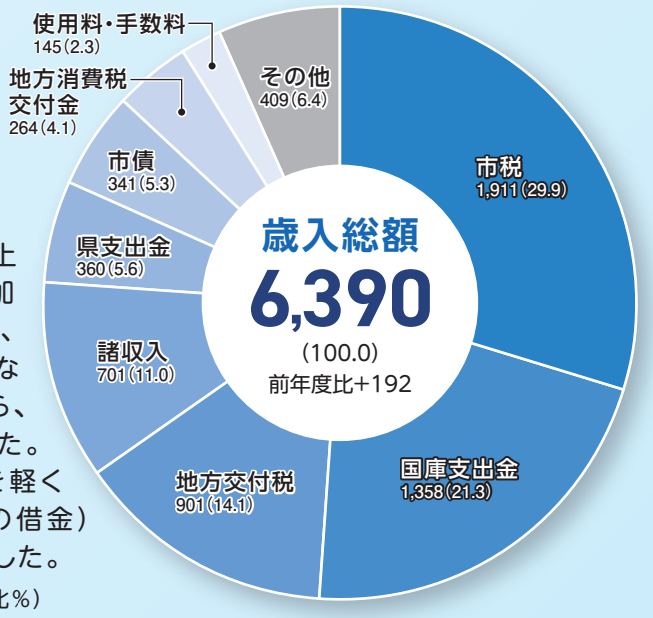
マンガで読める！
わかりやすい
北九州市の財政

▲詳しくはコチラ

歳入（収入）一般会計

市税収入は、賃上げによる所得の増加や固定資産税の伸び、定額減税の影響がなくなったことなどから、過去最高となりました。一方、将来の負担を軽くするため、市債（市の借金）の発行額を減らしました。

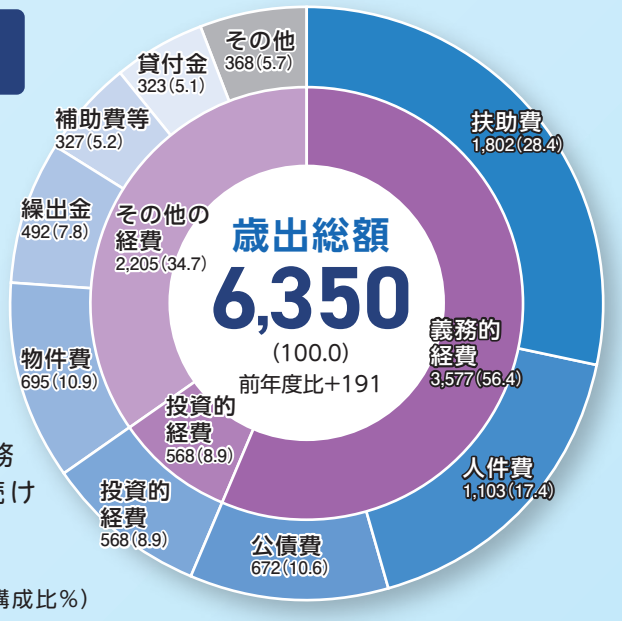
（単位：億円・（）内は構成比％）



歳出（支出）一般会計

扶助費（子どもや高齢者などへの支援）や人件費、公債費（市債の返済など）といった義務的経費が増え続けています。

（単位：億円・（）内は構成比％）



特集1に関するお問い合わせ　財政・変革局財政課☎582・2002

対＝対象　定＝定員、定数　料＝料金、費用　申＝申し込み　問＝問い合わせ　開＝開所時間　休＝休所日　手＝手話通訳　要＝要約筆記　F＝FAX　担＝市の担当課　共通＝共通の内容